

平成30・31年度武蔵野市教育研究奨励校

児童が主体的・協働的に課題解決する

学習過程の工夫

～体育科におけるボール運動系の授業改善を通して～



令和元年11月1日(金)

武蔵野市立関前南小学校



あいさつ 武蔵野市教育委員会教育長 竹内 道則

武蔵野市の児童の体力は、「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」によれば、概ね東京都の平均値を上回っているものの、握力と投力に関しては下回る現状があります。武蔵野市教育委員会では、第二期学校教育計画の施策1として、「基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育む指導の充実」を、また、施策10として「体力向上・健康づくりの取組の充実」を掲げ、体験的な学習や問題解決的な学習、学習意欲の向上を図るための授業の工夫や改善、心身ともに健康で明るく活力ある生活を営むための子どもたちの健康・体力づくりを目指して学校教育を進めて参りました。

こうした中、本校では、平成30・31年度武蔵野市教育研究奨励校として、体育科におけるボール運動系の授業改善を通して「児童が主体的・協働的に課題解決する学習過程の工夫」に努めていただきました。主体的・協働的な課題解決を図る学習を意図的に展開することで、児童が粘り強く意欲的に運動に取り組む姿が見られ、運動習慣の定着を図ることができたと伺っております。

本研究の成果が、広く市内外の教育実践に寄与することを心より願っております。結びに、本研究の推進に御尽力いただきました加藤 聖記 校長先生をはじめ、教職員の皆様に感謝を申し上げますとともに、本研究のために、御指導・御助言を賜りました日本体育大学教授 白旗 和也 先生に厚く御礼を申し上げます。

はじめに 武蔵野市立関前南小学校長 加藤 聖記

「この広場から 伝われ想い！」 私が関前南小学校に着任してから、願い続けていることです。「できるだけ子供の近くに居たい！ 身近な存在でありたい！」そんな思いでここまで子供たちと関わってきました。そこから見えたもの、それは、子供たちのもつ力とこれから育てていく力でした。

関南小の子供たちのよいところは、素直さです。大人の「おしえ」をよく聞き、努力し、守ります。基本的なことはどんどん覚え、身に付けていきます。そして、何よりも素晴らしいのは表現する力です。大勢の人の前でも、自分らしい方法で工夫して発表できる子供が多いことです。「学芸会」や「関前アドベンチャーでの宣伝集会」など普段から、高学年が他の学年をリードし、子供らしい機知に富んだ表現する力を見せてくれます。あいさつも、元気でしっかりとできます。きまりをよく守り、穏やかで笑顔あふれる子供たちだと私は感じております。

そんな子供たちが課題解決型の学習をどのように展開していくかがカギと考え、新学習指導要領の本格的な実施に伴い、自ら課題を見付け、自ら解決する方法を考え、試行錯誤し、答えを見付け、自分らしい方法で発表することを総合的に育てていくことについて、体育の指導を中心に研究を進めて参りました。

体育の得意な教員でなくても誰でも授業改善が図れるよう学習過程や教材教具、評価の工夫に取り組みました。本校の研究が皆様の参考となれば幸いです。

主題の捉え方

「主体的・協働的な課題解決」を、児童の学習が「粘り強く意欲的に解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返りつつ、仲間と共に課題を解決し、次の学びにつなげる」という過程を経ることによって導かれるものであると捉えた。そのために、「学習過程」について3つの工夫を行い、授業改善を図ることで主題に迫ることができると考えた。

研究構想図

体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

学校目標

- ◎しっかり考える子ども
- すなおでやさしい子ども
- 元気な子ども

目指す児童の姿

- ・生き生きと体育学習に取り組む子
- ・基本的な動きや技能が分かる子
- ・自他の課題を発見し、解決に向けて協働的に学習することができる子

児童の実態

- 外で体を動かして遊ぶ子が多い。
- 体育の学習を好きな子が多い。
- 体育の授業を生かした遊びをしている子は少ない。
- 課題解決の意識をもって協働的に学習に臨む姿勢が低い。

研究主題

児童が主体的・協働的に課題解決する学習過程の工夫
～体育科におけるボール運動系の授業改善を通して～

<研究仮説>

ボール運動系の学習において、児童が課題解決を通して3つの資質・能力を身に付けられるよう学習過程を工夫し、授業改善を行うことで、児童の主体的・協働的に課題解決する力を高めることができるだろう。

低学年の目指す児童像

- ・楽しみや喜びを味わいながら生き生きと運動遊びをする子
- ・各種の運動遊びで習得が期待される、基本的な動きを身に付けることができる子
- ・体を動かしながら感じたことを友達と一緒に表現する子
- ・自分の課題をもち、解決に向けて取り組むことができる子

中学年の目指す児童像

- ・楽しみや喜びを味わいながら生き生きと運動する子
- ・各種の運動の基本となる動きや技能が分かり、それを身に付けることができる子
- ・視点を明確にして考えを伝え合い、認め合うことができる子
- ・学習に課題をもち、解決方法を選択できる子

高学年の目指す児童像

- ・運動の特性を理解し、積極的に運動に取り組む子
- ・各種の運動の基本となる技能を、それぞれの特性に応じて理解し、身に付けることができる子
- ・自己や相手に応じて、よりよい動きや作戦を行うために、アドバイスし合える子
- ・自ら課題を見付け、解決方法や活動を選択したり工夫したりできる子

【粘り強く意欲的に解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返り

次の学びにつなげるための3つの「学習過程の工夫」】

- (1) 小学校6年間を見通した学習過程の工夫
- (2) 単元の学習過程の工夫
- (3) 1単位時間の学習の流れの工夫

関前南小学校の体育の考え方

授業づくりに反映

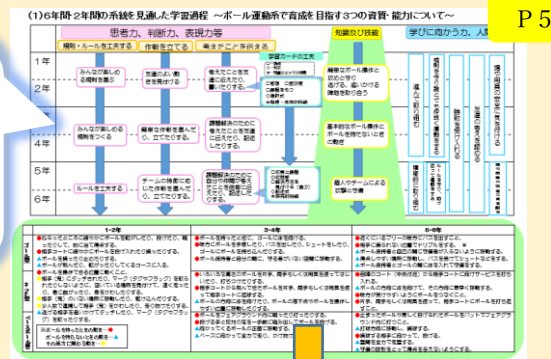
【具体的な形】

(1) 小学校6年間を見通した学習過程の工夫

6年間で育成する3つの資質・能力を学校全体で系統的に学習を進める。

低・中・高学年の2年間単位で示されている目標の達成に向け、指導計画を作成し、各学年での具体的な目標を設定する。

各学年でのねらいや学習内容、既習や今後の学習との接続を見やすく整理



上の表を参考に2年間を見通し、学年ごとの具体的な目標を設定

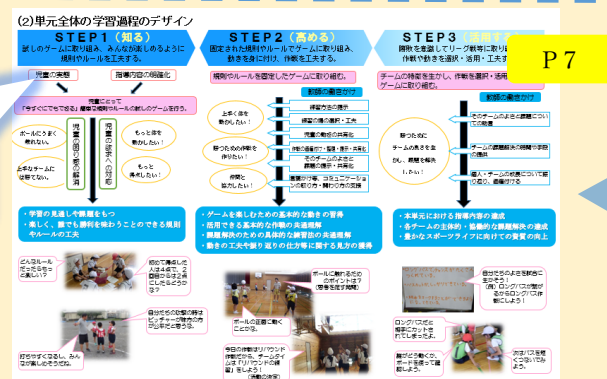
(1) 学習過程の工夫
ア 2年間の系統性を見通した学習過程

	5年生	6年生
知識・技能		
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

(2) 単元の学習過程の工夫

単元を3つのステップ（知る・高める・活用する）で構成することを基本とし、予想される児童の反応や指導の留意点をステップごとに押さえることで、単元を通しての課題解決学習を円滑に進める。

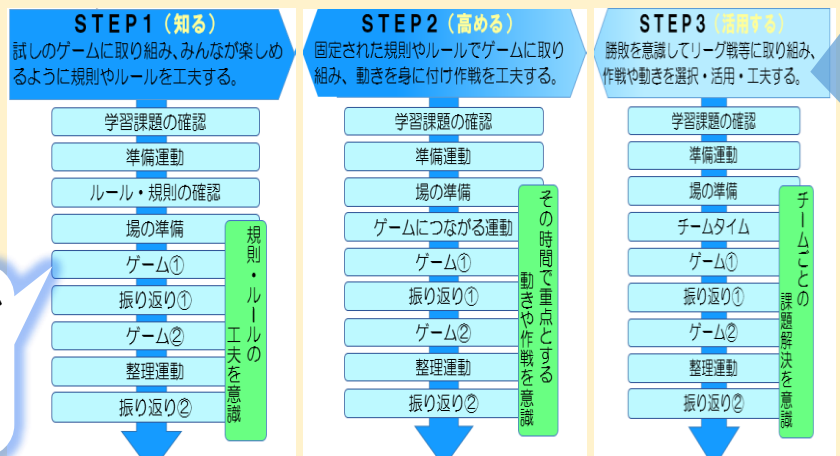
ステップごとに指導のポイントを整理



(3) 1単位時間の学習の流れの工夫

ステップごとの1単位時間における課題解決学習の基本的な流れをデザインし、学習のねらいや振り返りの視点を明確にする。

1単位時間の流れの基本を作ること、課題解決型の授業を組み立てやすくする



	5年生	6年生
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 近くにいるフリーの味方にパスを出す。 ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動する。 各チーム2つのゴールに対して得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に捕られない位置でドリブルをする。 チームの作戦に基づいた位置に動きながらパスやシュートをする。 各チーム1つのゴールに対して得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをする。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶ。 友達やチームのよさに気付く。 自己やチームの課題を解決するために考えたことを、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って、仲間に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や自他のチームの特徴に応じた作戦を選択したり考えたりする。 自己や自他のチームの課題を解決するために考えたことを、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って、仲間に伝える。 みんなが楽しめるルールを工夫する。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ゲームや練習の中で、お互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認める。 ルールやマナーを守り、仲間と助け合って練習やゲームを行う。 役割を分担しながら、安全に気を配って用具の準備や片付けを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームの中で、お互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや相手のよい動きを認める。 ルールやマナーを守り、仲間に励ましや称賛の言葉をかけて助け合いながら練習やゲームを行う。 役割を分担して準備や片付けをするとともに、安全に気を配って用具の準備や片付けを行ったり、運動する場を整備したりする。

STEP 1 (知る)	STEP 2 (高める)	STEP 3 (活用する)
1~2時	3~5時	6~9時
<ul style="list-style-type: none"> バスケットボールのルールを理解する。 シュートやパス、ドリブルなどの習得を目指した簡単なゲームを行う。 試したゲームを通して、自分達に合ったよりよいルール作りを行い、ルールを固定する。 自己やチームのよさ・課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> シュートやパス、ドリブルなどの習得を目指したチーム練習を行う。 固定したルールで試合を行い、攻め方や守り方等の作戦を選択したり、考えたりする。 自分達のチームの良さや課題から、作戦を考える。 よい動きを全体で振り返り、次回の試合に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> シュートやパス、ドリブルなどの習得を目指したチーム練習を行う。 固定したルールでリーグ戦を行う。その際、自分たちのチームや相手チームに応じた作戦で試合を進める。 個人・チームの成長や作戦について振り返る。

ゲーム作りについて考え、工夫できるようにする。

技能の獲得や作戦の立案等について課題解決を行う。

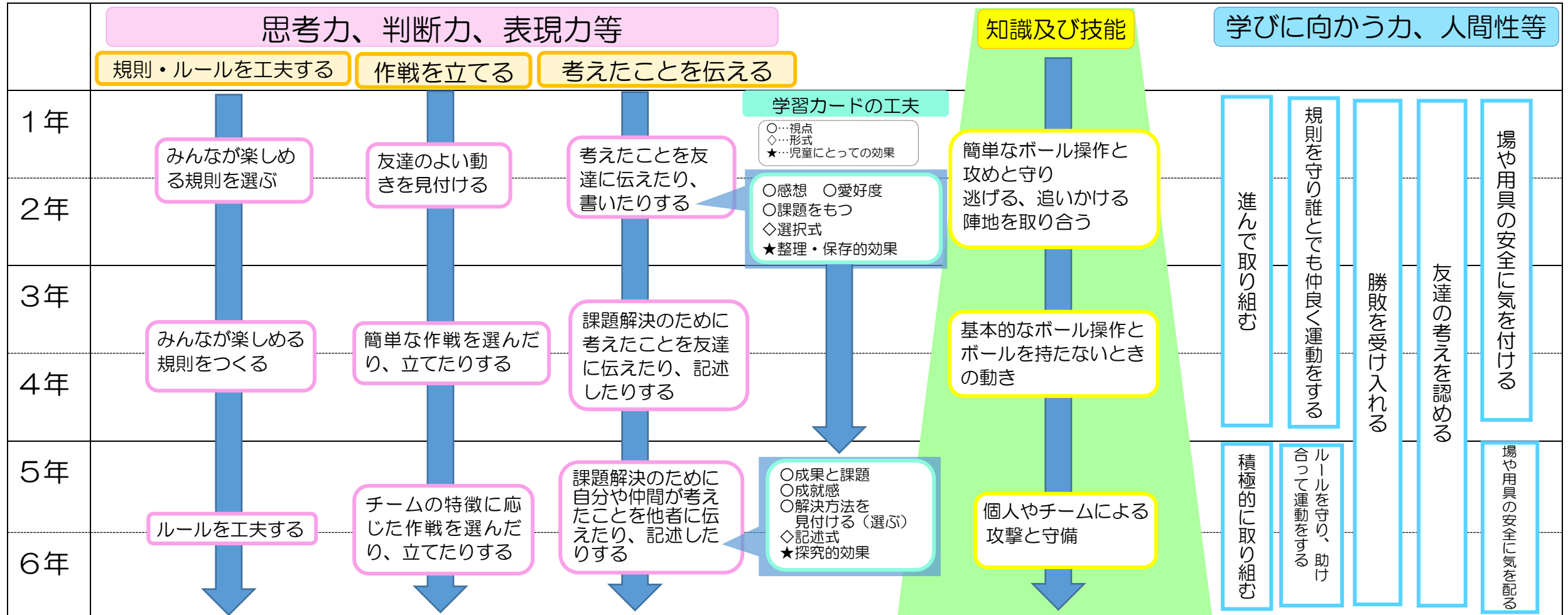
既習内容を生かし、チーム主体でゲームを楽しむ。

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価【観点】 ☆主題に迫るための手だて
1 学習内容の確認をする。 ・本時の学習内容を知り、見直しをもつ。 自他のチームの特徴に応じた作戦を立ててゲームをしよう。	
2 準備運動 ・手足首を中心に準備運動を行う。	○運動で使う部分を意識して動かすようにさせる。
3 チームタイム ・自分たちの考えた作戦の動きを確認する。	○シュート、リバウンド、パス練習など自分たちの作戦に合わせた動きを確認する。
4 ゲーム1 (総当たり戦) ・前半3分→作戦の見直し5分→後半3分→振り返り2分	☆作戦の見直しの視点 ①自分のチームや相手のチームに合っている作戦だったか。 ②どうするとよりよい動きになるか。
5 ゲーム2 (総当たり戦) ・前半3分→作戦の見直し5分→後半3分	○4試合中、1人3回は試合に出るようにし、出ない場合はシュート回数や誰が誰にパスを出したかを記録する。 ◆自他のチームの特徴に応じた攻め方を考えゲームに生かすことができる。 【思考・判断・表現】
6 振り返り3分	☆振り返りの視点 ①うまくいったこと。 ②相手チームのよい動き。 ③次回意識したいこと。
7 整理運動	○相手チームのよい動きを紹介し合い、次回の作戦に生かす。
8 学習のまとめ ・自他のチームに応じた作戦でゲームができたチームを賞賛する。	
10 用具の片づけ	

系統的な課題解決学習の推進 児童の学びの質の保障

主体的・協働的に課題解決に取り組む児童の姿の実現

(1) 小学校6年間を見通した学習過程の工夫 ~ボール運動系で育成を目指す3つの資質・能力について~



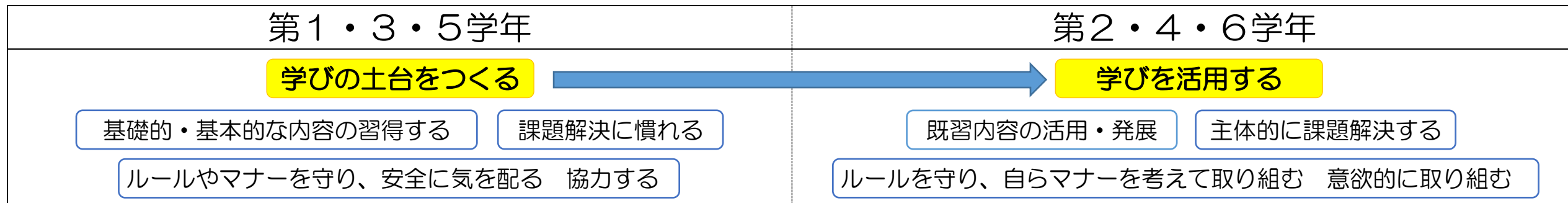
5

	1・2年	3・4年	5・6年
ゴール型	<ul style="list-style-type: none"> ●ねらったところに緩やかにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして、的に当て得点する。 ●相手コートに緩やかにボールを投げ入れたり捕ったりする。 ▲ボールを捕ったり止めたりする。 ▲ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ボールを持ったときに、ゴールに体を向ける。 ●味方にボールを手渡したり、パスを出したり、シュートをしたり、ゴールにボールを持ち込んだりする。 ▲ボール保持者と自分の間に、守る者がいない空間に移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●近くにいるフリーの味方にパスを出すこと。 ●相手に捕られない位置でドリブルをする。 ▲ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動する。 ▲得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをする。 ▲ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をする。
ネット型	<ul style="list-style-type: none"> ●ボールを操作できる位置に動くこと。 ■相手(鬼)にタッチされたり、マーク(タグやフラッグ)を取られたいないように、空いている場所を見付けて、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりする。 ■相手(鬼)のいない場所に移動したり、駆け込んだりする。 ■少数で連携して相手(鬼)をかわしたり、走り抜けたりする。 ▲逃げる相手を追いかけてタッチしたり、マーク(タグやフラッグ)を取ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな高さのボールを片手、両手もしくは用具を使ってはじいたり、打ちつけたりする。 ●相手コートから飛んできたボールを片手、両手もしくは用具を使って相手コートに返球する。 ▲ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自陣のコート(中央付近)から相手コートに向けサービスを打ち入れる。 ▲ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動する。 ●味方が受けやすいようにボールをつなぐこと。 ●片手、両手もしくは用具を使って、相手コートにボールを打ち返すこと。
ベースボール型	<ul style="list-style-type: none"> ●止まったボールや易しく投げられたボールをバットでフェアグラウンド内に打つこと。 ▲打球方向に移動し、捕球する。 ●捕球する相手に向かって、投げる。 ▲塁間を全力で走塁する。 ▲守備の隊形をとって得点を与えないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりする。 ●投げる手と反対の足を一歩前に踏み出してボールを投げる。 ▲向かってくるボールの正面に移動する。 ▲ベースに向かって全力で走り、かけ抜ける。 	

※ボールを持ったときの動き…●
 ボールを持たないときの動き…▲
 その両方に関わる動き…■

～2年間を見通した学習過程デザイン例～

2年間を見通した学習計画を立て、各学年での学びの重点を明確にすることで、学びの系統性や連続性を押さえた学習過程を生み出すことができる。前学年での既習内容を生かし、児童に適した課題解決の場を設定するとともに、次学年を意識して学習のゴールを設定する。



例 高学年 ゴール型ゲーム

学年	第5学年	第6学年
(ゴール) 型	ハンドボール	バスケットボール
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・近くにいるフリーの味方にパスを出す。 ・ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動し、パスを受け取る。 ・自分の判断や友達の助言を基に得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に捕られない位置でドリブルをする。 ・チームの作戦に基づいた位置に動きながらパスやシュートをする。 ・自ら得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをする。
思考力・ 判断力・ 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な作戦を選択する。 ・友達やチームのよさに気付き、伝える。 ・自己やチームの課題を解決するために考えたことを、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って、仲間に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの特徴に応じた作戦を選択したり考えたりする。 ・友達やチームのよさ、課題に気付き、伝える。 ・チームの課題を解決するために考えたことを、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って、仲間に説明する。
学びに向かう力・ 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや練習の中で、お互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取り組みを認める。 ・ルールを守り、仲間と助け合って練習やゲームを行う。 ・役割を分担しながら、安全に気を配って用具の準備や片付けを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの中で、お互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや相手のよい動きを認める。 ・ルールやマナーを守り、仲間に励ましや称賛の言葉をかけて助け合い、練習やゲームを行う。 ・役割を分担して準備や片付けをするとともに、安全に気を配って用具の準備や片付けを行ったり、運動する場を整備したりする。

(2) 単元全体の学習過程のデザイン

STEP 1 (知る)

試しのゲームに取り組み、みんなが楽しめるように規則やルールを工夫する。

児童の実態

指導内容の明確化

児童にとって「今すぐできる」簡単な規則やルールで試しのゲームを行う。

ボールにうまく触れられない。

上手なチームには勝てない。

児童の困り感の解消

児童の欲求への対応

もっと体を動かしたい！

もっと得点したい！

- ・学習の見通しや課題をもつ
- ・楽しく、誰でも勝利を味わうことのできる規則やルールの工夫

STEP 2 (高める)

固定された規則やルールでゲームに取り組み、動きを身に付け、作戦を工夫する。

規則やルールを固定したゲームに取り組む。

教師の働きかけ

練習方法の提示

練習の場の選択・工夫

児童の動きの共有化

作戦の価値付け・整理・提示・共有化

そのチームのよさと課題の提示・共有化

言葉かけ、コミュニケーションの取り方・関わり方の支援

うまく体を動かしたい！

勝つための作戦を作りたい！

仲間と協力したい！

- ・ゲームを楽しむための基本的な動きの習得
- ・活用できる基本的な作戦の共通理解
- ・課題解決のための具体的な練習法の共通理解
- ・動きの工夫や振り返りの仕方等に関する見方の獲得

どんなルールだったらもっと楽しいかな？

初めて得点した人は4点で、2回目からは2点にしたらどうかな？

自分たちの攻撃の時はピッチャーが味方が公平だと思うな。

打ちやすくなるし、みんなが楽しめそうだね。

ボールに触れるためのポイントは？
(思考を促す発問)

ボールの正面に動くことかな。

今日の作戦はリバウンド作戦だから、チームタイムは「リバウンドの練習」をしよう！
(活動の決定)

STEP 3 (活用する)

勝敗を意識してリーグ戦等に取り組み、作戦や動きを選択・活用・工夫する。

チームの特徴を生かし、作戦を選択・活用・工夫してゲームに取り組む。

教師の働きかけ

そのチームのよさと課題についての助言

勝つためにチームのよさを生かし、課題を解決したい！

チームの課題解決の時間や手段の提供

個人・チームの成長について価値付ける

- ・各チームの主体的・協働的な課題解決の達成
- ・豊かなスポーツライフに向けた資質の向上

「ロングパスでチャンスがたくさんつくれている。
パスカットがしっかりできている。
相手をマークすることができようになっている。」

自分たちのよさを試合に生かそう！
(例) ロングパスがつながるからロングパス作戦にしよう！

ロングパスだと相手にカットされてしまったよ。

誰がどう動くか、ボードを使って確認しよう。

次はパスを短くつないでみよう。

(3) 1単位時間の学習の流れ(中学年・高学年)

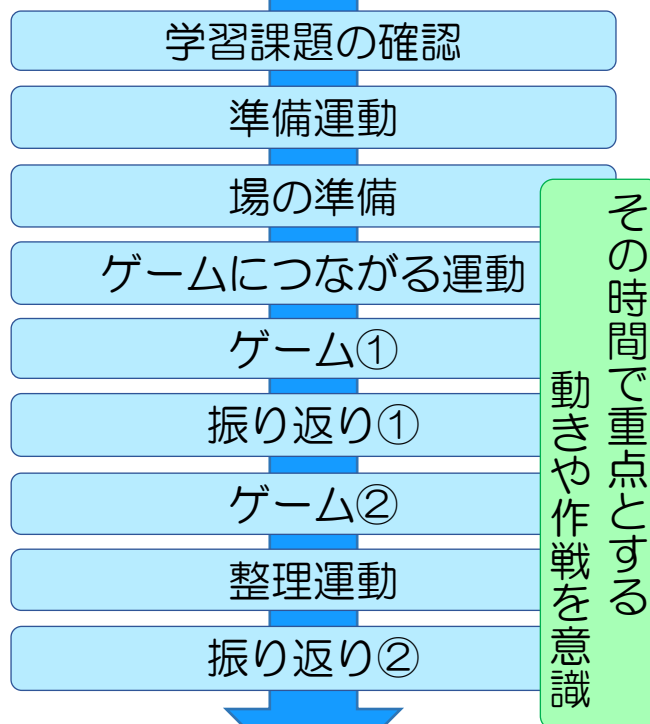
STEP 1 (知る)

試しのゲームに取り組み、みんなが楽しめるように規則やルールを工夫する。



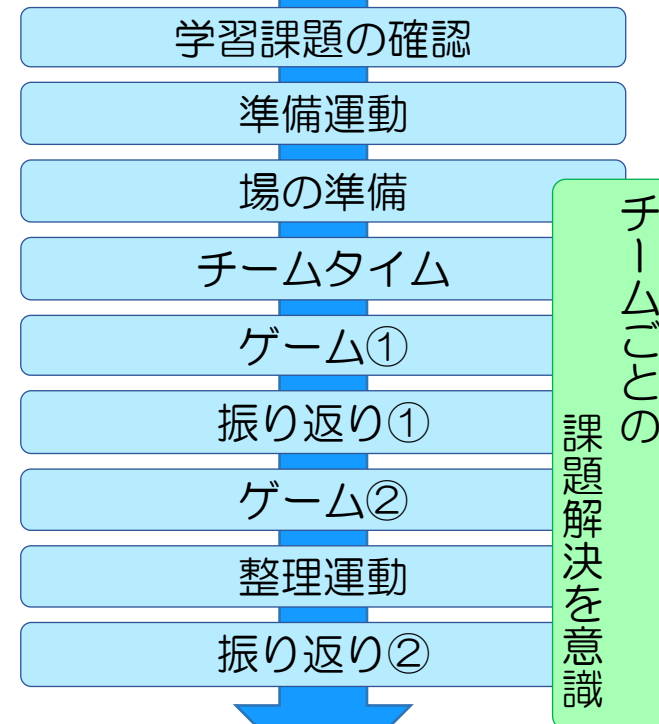
STEP 2 (高める)

固定された規則やルールでゲームに取り組み、動きを身に付け作戦を工夫する。



STEP 3 (活用する)

勝敗を意識してリーグ戦等に取り組み、作戦や動きを選択・活用・工夫する。



「振り返り」の視点

中学年

【STEP 1 (知る)】

- みんなが楽しめるゲームにするために、どのような規則がよいか。
- 自分が得意、不得意に感じた事は何か。
- ゲームを楽しむために、今後の学習でどのような活動に取り組みたいか。

高学年

- みんなが楽しめるようにするために、どのようなルールがよいか。
- 自分たちのチームのよさや課題は何か。
- 作戦について、うまくいったことや課題点、次の試合で意識したいことは何か。
- どのようなよい動きがあったか。ボールをもたない時の動きはどうだったか。

【STEP 2 (高める)】

- 取り組んだ動きについて、高まりを感じることができたか。
- 作戦に生かすことができる動きはあったか。
- 作戦について、うまくいったことや課題点、次の試合で意識したいことは何か。

- 自分たちのチームのよさや課題は何か。相手チームのよさは何か。
- 作戦について、うまくいったことや課題点、次の試合で意識したいことは何か。
- どのようなよい動きがあったか。ボールをもたない時の動きはどうだったか。
- どうすればよりよい動きになるか。

【STEP 3 (活用する)】

- 選んだ作戦は有効だったか。
- 作戦について、うまくいったことや課題点、次の試合で意識したいことは何か。
- 相手のチームには、どのようなよい動きがあったか。

- 作戦が、自分のチームや相手チームに合っていたか。
- 作戦について、うまくいったことや課題点、次の試合で意識したいことは何か。
- どのようなよい動きがあったか。ボールをもたない時の動きはどうだったか。
- どうすればよりよい動きになるか。

1 単位時間の学習の流れ(低学年)

低学年は、中・高学年と比べ、夢中になって運動遊びをすることを通して自ずと資質・能力を獲得していく特性が強い。教師は、児童の実態に応じて、高める段階に進めたり、知る段階に立ち返ったりしながら指導していくので、STEP 1 と STEP 2 を 1 つのまとまりとした。

STEP 1・2 (知る・高める)

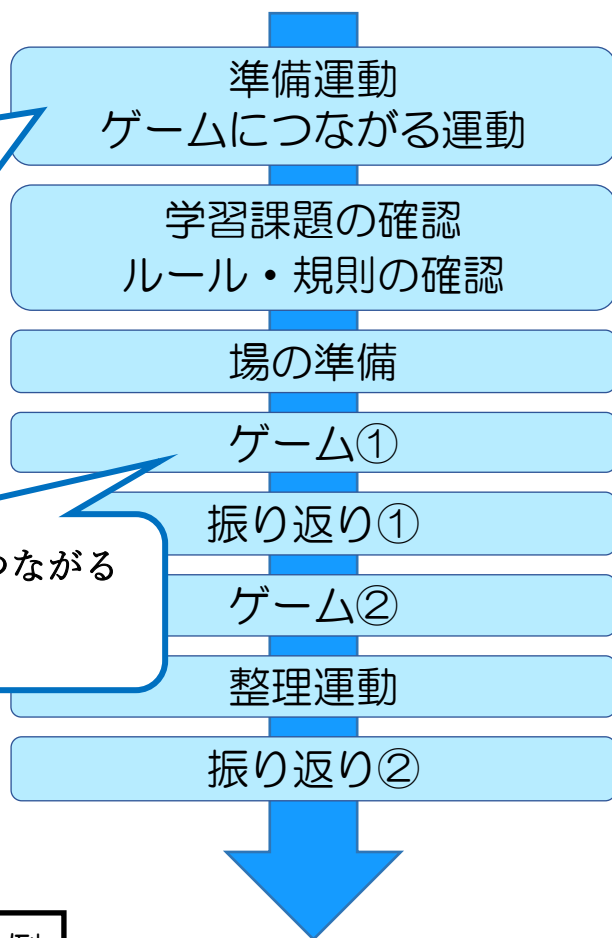
ルールを知り、いろいろな動きを取り入れた遊びを楽しむ。
簡単な規則を工夫して遊びに取り組み、動きながらよい動きを見付ける。

STEP 3 (活用する)

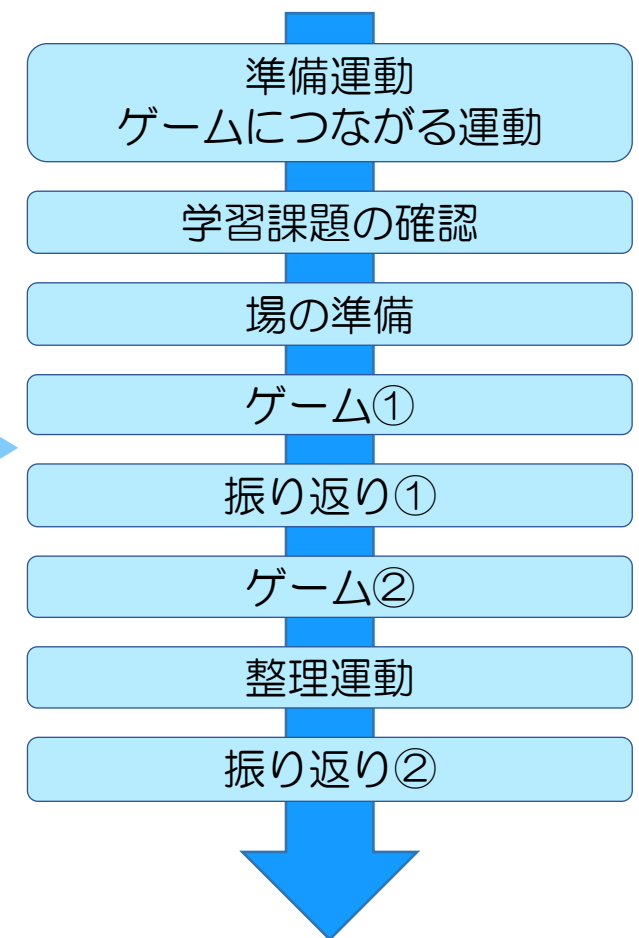
勝敗を意識して遊びに取り組み、
攻め方を選ぶ。

児童の運動への
欲求を満たすた
め、まずは夢中
になって動ける
運動を行う。

ここでは、STEP 3 へつながる
簡単なゲームを行う。



身に付けた動きを活用



「振り返り」の視点の例

低
学
年

【STEP 1・2 (知る・高める)】

- どんな遊びか、分かったか。
- どんなルールか、分かったか。
- 楽しめたか。
- どうすれば、遊びが続くか。
- 友達のよいところは見つけたか。

【STEP 3 (活用する)】

- 勝つためにどんな攻め方を選んだか。
- みんなで楽しめたか。

児童と教員の意識調査

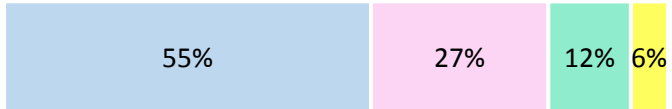
「関前南小学校の体育の考え方」の活用を中心とした授業改善の取組が、児童の主体的・協働的な課題解決に効果的であったかを、全校児童対象の体育アンケートの結果と教員の意見は以下の通りである。

全校児童対象の体育アンケート(令和元年7月実施)

(1) 体育の学習は、好きですか。



(2) ボール運動は、好きですか。



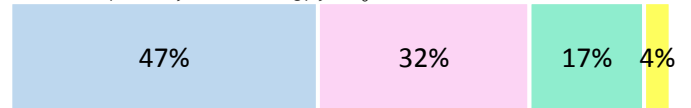
(3) めあて(目標)をもって、学習できていますか。



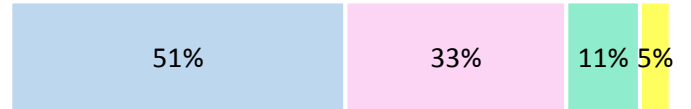
(4) 体育の学習で、友達と協力することを大切にしていますか。



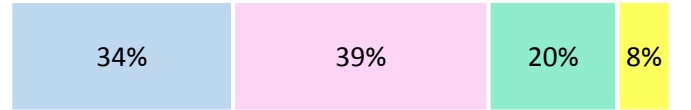
(5) 友達のよい動きを参考にして、自分の動きをよくしようとしていますか。



(6) どんな動きをしたらよいか、どんな作戦だと勝利できるか、考えながら学習していますか。



(7) 振り返りの時間に、自分や友達の動き、作戦について意見(感想)を友達と伝え合っていますか。



■ とてもそう思う ■ あまり思わない
 ■ まあまあそう思う ■ 全く思わない

アンケート結果

- ・質問項目(1)(2)(3)で肯定的な回答が80%以上であることから、児童が課題意識をもちながら、楽しく学習に取り組むことができている様子が分かる。その他の質問項目においても肯定的な回答が、80%以上の項目が多く、児童が学習に主体的に取り組むことができていると考えられる。
- ・質問項目(4)(6)の肯定的な回答が80%以上、(5)(7)が70%以上という結果から、おおむね児童が友達と協働的に課題解決をしようとしている、もしくはしている実態が分かる。しかし、(5)(7)の結果から、友達から学んだことを自分に生かすことや意見の交流に改善の余地があり、学習の積み重ねや手だての工夫が必要である。
- ・全ての質問項目において肯定的な回答が70%以上になっていること、また教員の意見から「体育の考え方」を活用した授業づくりが、児童の主体的・協働的な課題解決の力の向上に効果的であったことが分かる。より児童の力を伸ばし肯定的な回答が増えるように「体育の考え方」の修正・改善や手だての工夫が必要である。

授業を行ってみて(教員の意見)

- ・「体育の考え方」を活用した単元全体の学習過程のデザインの工夫や授業の流れの考え方に沿って授業づくりをすることで、児童が積極的に学習したり、友達と協働的に活動に取り組んだりする姿がよく見られる授業を行うことができた。
- ・6年間・2年間の系統性を意識することで、次年度を見越して(もしくは前年度を踏まえて)学習内容や身に付けたい力を検討することができた。低・中・高学年、それぞれの段階の2年間で習得させたい力を明確にしながらか授業づくりをすることの大切さを改めて感じた。
- ・児童に振り返りや学習のまとめの視点を明確にすることで、よい動きを紹介し合ったり、よりよい作戦を考えたりしながら、友達と協働的に課題解決する姿が見られた。

研究の成果と今後の課題

体育科における児童の主体的・協働的に課題解決する力の向上を目指し、学習過程の工夫を中心とした指導法を探る研究を2年間行った。その成果と課題は、以下のようにまとめられる。研究の成果を生かし、課題を解決していきながら、児童の能力の向上、授業改善を図っていく。

<成果>

○「関前南小学校の体育の考え方」の整理

授業改善を図るため、「3つの学習過程の工夫（1）小学校6年間を見通した学習過程の工夫、（2）単元の学習過程の工夫、（3）1単位時間の学習の流れの工夫」を中心に、体育科の授業づくりの考え方や方法を整理し、まとめることができた。

○児童の主体的・協働的に課題解決する力の向上

「体育の考え方」を用いることで授業改善を図ることができ、児童の主体的・協働的に課題解決する力を高めることができた。児童の体育アンケートの結果から、課題意識をもって意欲的に学習に取り組んでいる姿や、友達と課題解決に向けて学び合っている様子が分かる。また授業での様子から、学習を重ねるごとに、意欲の高まりや協働的な学習の質の向上が見られ、学びが深まっていた。

○教員の意図的・計画的な授業づくり

「体育の考え方」を用いた授業づくりをすることで、どの教員も見通しをもって授業づくりをすることができるようになった。現在担任をしている学年のことだけを考えるのではなく、2年間の系統を見通した学習を計画し、単元のデザインや授業の流れの考え方に沿って授業づくりをすることで、授業改善を図ることができた。

<課題>

○チームの時間や振り返りの時間を中心とした協働的な学びの向上

児童の体育アンケートの結果から主体的な学びの様子については肯定的な回答が80%を越えたが、協働的な学びの様子については70%代の結果となり、他の結果と比べるとさらに改善の余地がある。授業でも、自分本位な学び方や特定の児童が中心となって学習が進むこともあり、チームや全体での協働的な課題解決が十分ではない様子が見られる。協働的な学習の積み重ねによる意識や取り組み方の向上、学習カードや話し合いの視点等よりよい手だての工夫などが必要であると考えられる。

○よりよい「体育の考え方」の改善と「ボール運動系」から他の領域、他教科への展開

よりよい授業づくりや授業改善を目指し、「体育の考え方」の修正・改善を図っていく。現状では、「ボール運動系」を中心に「体育の考え方」をまとめているが、他の領域にも活用できるようにしていく。さらに本研究で学びまとめたことを他教科にも応用し、児童の主体的・協働的に課題解決する力を、高めていきたい。

《本校の研究を御指導くださった講師》

日本体育大学体育学部教授
白旗 和也 先生

おわりに 副校長 入江 明子

本研究が始まった平成30年度4月は、異動により、校長、副校長も含め教員構成が大きく変わり、体育の研究で武蔵野市教育研究奨励校の指定を受けていながらも暗中模索でした。教員経験や異動に関係なく、「児童が主体的に学ぶことができるような体育授業を誰もができるように」と考え、白旗先生のご指導を受けながら、ここまで進めることができました。拙いものではありますが、研究発表に至ることができましたのも白旗先生の御指導のおかげと感謝申し上げます。

《平成31年度研究に携わった教職員》

校長 加藤 聖記	副校長 入江 明子
【低学年分科会】	
○久保田厚子	小林深太郎
中村 隆智	藤本 高弘
○幸田ちはる	
【中学年分科会】	
○杉田 高明	牧野 聖也
水上 貴洋	鈴木 里実
○後藤 潤	
【高学年分科会】	
○佐藤 裕子	岡村 幸子
◎磯部 大吾	奥村 公朗
土方 緑	大里 椎菜

◎研究推進委員長 ○研究推進委員

《平成30年度研究に携わった教職員》

田口 千晶	平木 葵侑花
細野 恵	富田 孝子

